【公報種別】特許法第１７条の２の規定による補正の掲載
【部門区分】第３部門第４区分
【発行日】令和6年9月3日(2024.9.3)

【国際公開番号】WO2023/190331
【出願番号】特願2024-512453(P2024-512453)
【国際特許分類】
Ｃ２２Ｃ 38/00(2006.01)
Ｃ２１Ｄ 8/12(2006.01)
Ｈ０１Ｆ 1/147(2006.01)
【ＦＩ】
Ｃ２２Ｃ 38/00 ３０３Ｕ
Ｃ２１Ｄ 8/12 Ｄ
Ｈ０１Ｆ 1/147１７５

【手続補正書】
【提出日】令和6年6月14日(2024.6.14)
【手続補正１】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】００２１
【補正方法】変更
【補正の内容】
【００２１】
方向性電磁鋼板の鉄損を低減するため、鋼板中の二次再結晶粒を｛１１０｝＜００１＞方位（Ｇｏｓｓ方位）に高度に揃えることが求められている。しかしながら、工業的に方向性電磁鋼板を製造する際、二次再結晶の過程で、理想的なＧｏｓｓ方位からずれた方位の結晶粒も発生する。圧延直角方向（ＴＤ）の軸まわりにおける結晶粒のＧｏｓｓ方位からのずれ角をβ角という。なお、図９に示されるように、圧延直角方向（ＴＤ）とは、圧延方向（ＲＤ）と垂直であり、且つ方向性電磁鋼板の板面と平行な方向のことである。図２Ｂに、方向性電磁鋼板のβ角とレーザ照射前の１８０°磁区幅との関係を示す。図２Ｂより、β角が２°以下の領域が元の磁区幅が広いことから（約５００μｍ以上）、β角が２°以下の領域、より好ましくはβ角が１°以下の領域に優先的に磁区細分化処理を施すことが有効であることがわかる。